

高知工科大学学位授与式式辞

本日晴れて卒業された皆さん 本当におめでとうございます。

また、ご臨席いただいたご家族の皆様に対しましても、すべての教職員と共に心からお祝い申し上げます。

ただいま、学部四七四名、修士一三一名、博士一二名の総数六一七名に 学位記を授与いたしました。なお、この六一七名という数は開学十年目の本大学にとって最も多いものです。

私たちは開学以来「人の育つ大学」を目指して努力してまいりました。この「人」の中心は学生であることはもちろんですが、学生だけでなく、教職員もその中に含まれています。これらすべての「人」が常に成長を続けていける環境とすることが第一の使命であると私たちは考えて、努力を続けてまいりました。開学以来の10年間の努力の結果、全国的に、少なくとも大学関係者には高い評価を受けるようになりました。友人と久しぶりに会ったときに、皆さんは自分自身の成長を実感すると思います。自分自身の成長を感じた時に、心の奥底から喜びを感じるはずです。

私たち大学人は人が成長するのを実感するとき、大きな喜びを感じる人種です。私自身本日その喜びを実感しております。

世界にはそれぞれ異なった歴史・文化をもった多くの国々が存在しています。それぞれの国で常識も異なっています。そして、世界は日一日と狭く小さくなっています。今後その勢いを増していくことは明らかです。そのような時代に生きていくには、自分と異なった価値観を認め、お互いを尊重するとともに、しっかりとした自己を確立していることが重要です。すなわち、相手の立場を理解し、かつ自分を主張していかなければなりません。本来、大学は、異なった価値観を持つ人に対して寛容で、多様性こそがその発展に必要な、人と異なることが誇りとなる世界なのです。

米国の大学では卒業式のことを commencement と言います。卒業式は人生の新たなスタートであるという意味を込めてこの「commencement」という言葉を用いています。まさに、卒業式は新たなスタートを祝う式典なのです。

この大学で学んだこと、素晴らしい友人や教職員と出会ったことを

一生の宝にして、新たな門出をし、豊かな人生を送られることを願ってやみません。

しかし、行く手には多くの困難が待ち受けていることも事実です。日本の社会は、残念なことにまだ多様性を許容する風土となっていないとはいえません。特に、組織の内部にはその意識が強く残っています。そのような場合にこそ、誠意を持って誠実に対処することによって、活路は開けると思います。困難を糧にして、今後成長をし続けることを期待しています。

最後になりますが、皆さんは本日卒業を迎えました。今日この日を迎えられるのも、ご家族のご支援、友人の励ましがあつてのことだと思います。この機会に周囲の方々に対して感謝の思いを新たにされることをお勧めします。

皆さんの限らない将来を願って、本日の私の式辞といたします。

平成一九年三月二〇日

高知工科大学 学長 岡村 甫